

8月14日

プチ盆踊り

会場 千頭駅前広場

お盆は浴衣でにぎわおう 千頭駅前でプチ盆踊りを

お盆に浴衣で集まれる場所をつくりたい
そんなお母さんたちの思いから始まった「プチ盆踊り」
駅前に響き渡る太鼓の音のように、地域に輪が広がりつつあります

盆踊りでにぎわいを創出

8月14日の午後5時過ぎ、音戯の郷駐車場に車を止めると、千頭駅前広場から楽しげな祭りばやしと太鼓の音が聞こえてきました。会場では、急ピッチでプチ盆踊りの準備が進められています。今年は会場の中心に小さなやぐらが登場。祭りムードをさらに盛り上げていました。

毎年同日に開かれているこの祭り。千頭駅周辺のお母さんたちが発案し、段々と地域の人たちを巻き込みながら広がり続け、今回で5回目を迎えました。

「お盆なんだから、みんなワイワイ集まって、浴衣姿で盆踊りを楽しみたい。帰省した人を連れて行ける場所をつくりたかった」という実行委員会の思いは、少しずつ地域に浸透しつつあります。

午後6時半、中原康夫さんがたたく太鼓の音が、祭りの始まりを告げます。続けざまに流れ出す盆踊りの曲。つられるように続々と

集まり出す人たち。千頭駅に降り立つ観光客も、近所の住民たちも、自然に会場へと足が向いていました。

この盆踊りは飛び入り参加大歓迎。Tシャツ姿の若者も、小さな浴衣姿の女の子も、じんべえ姿のお父さんも、一緒になってやぐらを囲みます。最初は見ているだけだった人も、いつの間にか踊りの輪の中に。盆踊りは、やつぱり大勢でやるから楽しいんです。

会場内では、フランクフルト、たこ焼き、かき氷のほか、金魚すくいなども人気を集めていました。

やつぱり夏には浴衣と盆踊りが良く似合います。この小さな祭りが、地域の活気に、元気になっていきますように…。



8月13日

やっちゃん祭

会場 高郷河川敷

ステージパフォーマンスに歓声 5年目を迎えたやっちゃん祭

昼間の豪雨がうそのように晴れ上がった8月13日の夕方5時過ぎ、有志の思いが結実した「やっちゃん祭」は今年5年目を迎えました。パフォーマンス、赤石太鼓、手筒花火などの演目に来場者は心を躍らせました

祭りがあるから帰省しよう

地域の新たな絆を生み出し続けるやっちゃん祭第5回は8月13日、高郷河川敷で開かれました。

実行委員の前田孝一さんは「昼間の雨にはまいりました。降り続けば順延も考えられただけに、開催できてうれし。ステージパフォーマンスの出演者たちは、明日は来られないからね。準備は大変だったけれど、みんなが来てくれて本当に良かった」と、胸をなで下ろしました。

午後6時過ぎ。ステージに川根高校郷土芸能部が登場。迫力ある赤石太鼓の演奏が祭りの始まりを告げます。子どもたち、若者たち、おじいちゃんもおばあちゃんも…。

世代に関係なく続々と人が集まり出します。空が暗くなる頃には、人だかりになり、人だかりになりました。

やっちゃん祭のオリジナル曲「踊らにやっちゃん」が響くと、子どもも大人も輪になって盆踊りを楽しみました。

ステージでは、フリースタイルフットボールチームによる数々の技が披露されました。

祭りのフィナーレは手筒

花火。煙火保存会会員による手筒の炎が天空を焦がすと、その場にいる来場者全員が息をのんでいました。

昨年より協力者が増えていました。ステージと観客席の距離が近づいていました。年々進化を続けるこの祭り。帰省した人も、地元の人、祭りの一体感に心を躍らせました。

東北を支援する募金活動報告

震災直後に夏祭り実行委員会から町社会福祉協議会を通じて5万円を、そして今回の夏祭りにご参加いただいた皆さんからの義援金9,817円と実行委員会から10,183円をプラスして2万円を福島の災害対策本部へ送金いたしました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

千頭駅前広場には、地域の人や観光客など、大勢の人が立ち寄り、にぎわいを生んでいた。最初は参加者が少なかった盆踊りも、いつの間にか大きな輪になっていた。